

◆ 墨田都税事務所長賞 ◆

「私を支える税金」

墨田区立竪川中学校 3年 櫻井 大介

「あなたはADHDです。」そう診断されたのは小学四年生の頃だった。ADHDとは注意欠如・多動性障害のことであり発達障害の一種である。症状として落ち着きがなかったり、注意力が散漫でよく忘れ物をしたりするなどが挙げられる。ただ、ADHDは発達障害の中でも薬物療法が有効らしく、症状の緩和目的で色々と薬を処方された。

その当時はあまり実感がなかったが、今思い返せば私はずっと税金に支えられてきた。例えば今現在も服用中のコンサータとインチュニブという薬。コンサータは二十七mg錠一錠あたりで三八一・二円、インチュニブは三mg錠で五二八・二円だった。私は毎朝一錠ずつ服用しているので一日あたり九〇八・四円もかかる。東京都では十八歳になるまで医療費を助成してくれているため、無料で飲めているのだが、もし助成がなかったらどうなるだろうか。一ヶ月三十日だとすると月に二七五七二円、年間だと三三一五六六円もかかる計算になる。これら全てを支えてくれているのが税金というわけだ。

昔、自分がまだ薬を飲むことに慣れていなかった頃、薬を飲み忘れたことがある。その日は学校が休みだったので誰にも迷惑がかかることは無かったのだが、仕事から帰ってきた母に気付かれてしまい、

「人様の税金を無駄にするな！」

と非常に怒られてしまった。その時は薬が税金で賄われていることを知らず、無料で薬がもらえているこの現状が当たり前なんだと思っていた。だが、実際はそうではなかった。無料で薬がもらえて当たり前。誰もが安心して暮らせるのは当たり前。でもそれは政府の人達が税金によって当たり前を作っていたのだ。だから、私達は税金という存在に感謝しなくてはならない。なぜなら今このように生活出来ているのも税金が存在しているからだ。

ADHDという病気は完治しない病気らしい。ということは薬を飲み続ける限り、自分はずっとこれからも税金に支えられるだろう。だが三年後、私が大人になると今度は納税の義務がある。働いて税を納める。いわば、国を支える立場になるわけだ。自分は医療費などを助成してもらい、国は納税者によって支えられる。これが支え合いというものではないだろうか。これは自分に限った話ではない。誰しもが何かしら税金に支えられて生きている。国を支えることは一人の力では到底出来ない。だから日本国民一人一人が税金に支えられているということを自覚し、税を納めることで支え合っていかななくてはならない。

これからの日本の未来のために。